

JADE 英語部会・JACET オーラル・コミュニケーション研究会共催

## 第1回オーラル/ パフォーマンス英語教育研究会

【日時】 2015年 12月 12日 (土)

午前の部 09:20- 11:45 (08:50 開場) 午後の部 13:00-17:00 (入退場自由)

【場所】 南山大学名古屋キャンパス R 棟, および1階フラッテンホール

アクセス <http://www.nanzan-u.ac.jp/Information/access.html>

【内容】 1. 午前の部は、オーラル・コミュニケーションやパフォーマンスを含む英語教育に関する研究発表・実践報告・情報交換です。今回は「オーラル・コミュニケーション」や「パフォーマンス」を定義しません。スピーチ、音読、会話、発音、リスニング、コミュニケーション、ドラマ、プレゼンテーション、その他、発表者がこのカテゴリーに入るとご判断下さい。各発表は質疑を含め 45 分で、実演、映像・画像などの紹介を推奨します

2. 午後の部は、「第 20 回オーラル・コミュニケーション・フェスティバル」の自由見学です。このフェスティバルは、学生によるさまざまなジャンルのオーラル・コミュニケーション発表です。今回は、神戸市外大、青山学院大、同志社女子大、富士常葉大、南山大学短期大学部、東京工芸大、文教大、名古屋外大が参加予定です。

【その他】 参加費、無料。いずれの学会所属に関わらず、自由に発表・見学が可能。学生の参加も可能。

【お問合せ・お願い】 南山大学短期大学部英語科 浅野享三 [kzasano\(at\)nanzan-u.ac.jp](mailto:kzasano(at)nanzan-u.ac.jp)

### 予定

09:00～	受付 R 棟 2 階		
	R33	R44	R45
09:20～10:05	林 剛大 (東京経済大)	原口友子 (常葉大)	鈴木基伸 (豊田高専)
10:10～10:55	菊池 渚 (京都産業大学)	David Kluge (南山大) (～11:10)	居村俊子 (中村学園大)
11:00～11:45	浅野享三 (南山大)		塩澤泰子 (文教大学) 草薙優加 (群馬大学) 齋藤安以子 (摂南大学)
12:30～	JACET Oral Communication Festival 受付開始	フラッテンホール	ホワイエ
13:00～17:00	Oral Communication Festival		R 棟 1 階フラッテンホール

### その他

- ・ 本日学内の食堂 DA・GA・NE の営業は午前 10 時～午後 3 時までです。
- ・ 学内のコンビニ LAWSON の営業は午前 8 時～午後 8 時までです。
- ・ 学内は全学禁煙です。
- ・ 午後の部は、入退場自由です。ただしパフォーマンス中に入退場はできません。
- ・ 関係者以外の録音・録画・写真撮影などは固くお断りします。

## 発表内容

### 場所：R33 教室

9 時 20 分～10 時 05 分

発表者： 林 剛大 Gota Hayashi (東京経済大学)

発表タイトル：「テクノロジーと教室と言う空間を使って、どんな料理を作りましょうか」

内容：効果的な英語学習に繋がる、インターネットや教室の最新機材などの活用法について。

キーワード：オンライン学習，クラスマネージメント，モチベーションに関心がある方

10 時 10 分～10 時 55 分

発表者： 菊池 渚 Nagisa Kikuchi (京都産業大学)

発表タイトル：「マイストーリーを語る ―学習意欲の低い大学生向けの英語プレゼンテーション―」

内容：学習意欲、英語力ともに低い大学生を対象として、“自分の宝物”というタイトルの英語のプレゼンテーションの実施とその報告。自分自身の思いや経験を語ることにより、苦手な英語学習やプレゼンテーションを学生個人の経験と結び付け、各学生にとって意味のある学習活動になるよう工夫をした。授業運営の方法だけでなく、学生間の学び合いという点からも学生からのフィードバックをもとに考察する。

キーワード：モチベーション、表現力、学習意欲・学力の低い学生

11 時 00 分～11 時 45 分

発表者： 浅野享三 Asano Keizo (南山大学短期大学部)

発表タイトル：「新しい時代にふさわしい外国語教育の可能性：音読劇の応用」

内容：多言語自動通訳・翻訳時代の到来を念頭に、外国語教育に可能なことを音読劇の実践通して考察する。当日は学生の実演を交える予定。

キーワード：深い読解，音読，表現，プレゼンテーション，達成感，協同学習

## 場所：R44 教室

9 時 20 分～10 時 05 分

発表者： 原口友子（常葉大学）

発表タイトル：「オーラル・パフォーマンスの指導」

内容：筆者の学生たちが大学英語教育学会(JACET)オーラル・コミュニケーション研究会主催 Oral Communication Festival (OCF) に参加するようになって、今回で 9 年目になる。最初の数回は星新一の「ショートショート」（結末に驚きが用意されている短編小説）の翻訳劇を演じたが、その後は創作劇に挑戦してきた。その理由は、創作劇には観客にメッセージを伝える喜びがあるからである。創作劇というと「難解なせりふ」のイメージがあるかもしれないが、演じているのは経営学部の学生たちである。

本発表では、まず、昨年演じたコメディイ創作劇” CNN Interviews” の台本を基に、経営学部の学生たちが暗記できるようにする、台本作りの工夫について紹介する。次に、実際の英語劇の前半を dvd で鑑賞し、学生たちが生き生きと発表に取り組む姿をご覧いただく。

最後に、劇の練習と英語授業との組み合わせ方について実践報告する。去年は出演者の放課後のスケジュールがバラバラで思うように練習時間が持てなかった。そこで、劇の台本を授業の講読教材として学んだ翌週の授業で、公開リハーサルを行った。授業の学生たちにとっては、先週学んだばかりの劇を目の前で観劇する良い機会となったと同時に、このようにスラスラと英語のせりふを暗記しているクラスメートたちを目の当たりにして大いに刺激を受けていた。出演学生にとっては人前で演じるプレッシャーに慣れる機会となった。また、保育学部の英語授業ではコメディイの最も面白い場面を、グループごとに演じる発表会を行った。

10 時 10 分～11 時 10 分

発表者： David Kluge（南山大学短期大学部）

発表タイトル： In My Life: A Way to Motivate Low Level English Students to Make Speeches

内容: It is often difficult to motivate low level English students to use English. In My Life, an oral communication textbook, uses scrapbooks as a basis for students to give speeches that they are interested in doing and classmates are interested in listening to. This presentation first describes In My Life. Then, in the workshop part of the presentation, takes participants through a unit, showing them how the scrapbooks can be used by students to make speeches.

キーワード：深い読解，音読，表現，プレゼンテーション，協同学習

## 場所：R45 教室

9 時 20 分～10 時 05 分

発表者：鈴木基伸 Suzuki Motonobu（豊田工業高等専門学校）

発表タイトル：「語り」を意識した英語授業—高専における授業実践—

内容：リーディング素材の背後に存在する「語り手」を意識した英語実践例と、その前段階のウォームアップ練習例を紹介させていただきます。

キーワード：英語教育全般、とりわけ、英語指導法に興味のある方 音読、暗唱、暗写、内在化、群読

10 時 10 分～10 時 55 分

発表者：居村俊子 Toshiko Imura（中村学園大学・中村学園大学短期大学部基礎教育センター）

発表タイトル：リスニングに苦手意識を持つ学生達が聞き取れる瞬間！！

内容：ディクテーションと音読を使って英単語・英文が聞き取れるようになる。

11 時 00 分～11 時 45 分

発表者：塩沢泰子（文教大学）、草薙優加（群馬大学）、齋藤安以子（摂南大学）

発表タイトル：ドラマワークショップによる学生の変容と社会人基礎力について

内容：英国人の役者をファシリテーターに、宿泊を伴う短期のドラマワークショップを約 30 名の大学生対象に行い、事前・事後に社会人基礎力に関する自己評価アンケートを実施した。その結果、人とかかわる力や自己コントロール力などがワークショップによって伸びたと認識された。ワークショップの映像を紹介しながら、ドラマ活用の意義について論じたい。

キーワード：Cooperative Learning, Holistic Approach, drama, performance, 社会人基礎力、グローバル人材